

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	原田学園ことばの支援センター		
○保護者評価実施期間	令和8年1月22日		～ 令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和7年12月12日		～ 令和7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月20日		～ 令和8年2月13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月22日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先施設と家庭との間に立ち、信頼関係を基盤とした対話を重ねることで、支援の方向性の共有や足並みをそろえる役割を果たしている点が強みである。助言を一時的に行うのではなく、双方の思いや状況を丁寧に聞き取りながら、共通理解を形成している。	訪問時には園や学校側の実情や家庭の思いを丁寧に整理し、双方にとって無理のない支援の形を一緒に検討している。支援後には振り返りを行い、コミュニケーションのズレが生じないように継続的に確認している。	対話の記録や共有方法をさらに工夫し、合意形成の過程を明確にすることで、より安定した三者連携体制を構築していく。
2	支援計画の作成・実施にあたり、子どもの最善の利益を中心に据え、関係者が共通理解を持てるよう調整機能を果たしている。	アセスメントを丁寧にを行い、家庭と訪問先双方の意向を整理しながら支援計画に反映している。計画が形骸化しないよう、現場での実行可能性を重視している。	支援の進捗を確認し、成果や変化をより具体的に共有できる体制を整える。
3	専門職としての知見を活かしつつも、尊重した関わりを通して、訪問先との信頼関係を継続的に構築できている。	訪問先の理念や方針を尊重し、現場の実態に即した提案を行っている。また、家庭の安心感を高める情報共有を心がけている。	引き続き、訪問先との連携を丁寧にを行い、質の高い支援体制を維持する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	第三者による外部評価の実施体制が十分とはいえない。	日々の支援や連携業務に重点を置いてきたため、外部評価制度の導入や評価体制の構築まで至っていない。また、自己評価は実施しているものの、客観的指標を用いた検証の機会が限られている。	第三者評価の導入を具体的に検討し、外部からの助言を組織的な改善に活かす体制を整える。評価結果を職員間で共有し、改善計画として明文化する仕組みづくりを進める。
2	保護者同士の交流や学び合いの機会を十分に提供できていない。	訪問支援は個別対応が中心となるため、集合型の支援や交流機会を設定しにくい構造がある。また、各家庭の状況や時間的制約もあり、実施方法の検討が必要である。	保護者交流や学び合いの機会は、児童発達支援・放課後等デイサービスの枠組みの中での提供を想定している。引き続き、訪問支援の中で得られた知見は、担当する子どもの保護者に還元していく。
3	対話を重視した支援を行っている一方で、その合意形成の過程や成果を十分に可視化できていない。	関係者間での調整や対話は丁寧にを行い、個別支援計画等にも関係者の意向を反映している。しかし、その内容が十分に共有されているのは主に保護者に限られており、関係機関に対して明確に示す機会を設けられていない。	関係機関との情報共有を仕組み化し、個別支援計画の要点や役割分担を明確に示すとともに、定期的なケース会議等を通して合意形成の機会を検討する。また、本人・保護者の意向の反映状況を可視化し、双方向の意見交換と計画の見直しを行う体制を整備したい。